

道徳だより



穴水町立
向洋小学校
第4号
H27.12.8

自分自身を知る道徳

～2学期の活動を通して～



2学期は、運動会、マラソン大会など体育的行事がありました。誰一人としてあきらめることなく、最後まで頑張っている姿が見られました。

また、縦割り班による大なわとびの練習が11月からスタートし、高学年の子が低学年の子に跳び方を教えながら練習をしています。

さらに、『ふるさと学習』として、「たたら唄（5・6年）」「きびだんご作り（3年）」「鹿波獅子太鼓（4年）」「いもの作り（6年）」の体験活動を通して穴水・向洋地区の良さに触れてきました。

このように、2学期の教育活動を通して、あきらめない心・支え合う心・郷土愛を養うことができました。そして、道徳の授業では、それらの経験を学習する価値項目に合わせてふり返っています。様々な行事や活動の経験と道徳をつなぎ、子どもたち自身の真の姿を確認できる「道徳」となった2学期でした。



運動会



ふれあい
タイム

心豊かな 向洋っ子



マラソン大会



きびだんご作り

6年生では こんな授業をしています

『生命尊重』

「その思いを受けついで」



6年生は、「その思いを受けついで」の資料をもとに、生命尊重について考えました。この資料は、重い病気で入院したおじいちゃんとおぼくの心の通い合いを描いています。ぼくは、毎日のようにおじいちゃんを見舞いに行き、いろいろな思い出を作ります。しかし、おじいちゃんは、亡くなってしまいます。病院のベッドの枕の下から、のし袋が発見されます。その中には、手紙が入っていました。誕生日を1ヶ月先にひかえていたぼくへのおじいちゃんからの最後のメッセージでした。

「大ちゃんへ 誕生日おめでとう。いつもお見舞いに来てくれてありがとう。これからもずっと 大ちゃんのこと見守っているよ。」

資料を読んだ後、はりつめた空気が流れました。子どもたちの心に響いた資料だったようです。涙をこらえた子もいました。

「この資料から学んだことは？」と問うと

- ・人の思いは亡くなった後も生きていて、残された人が受けつぐことができる。
- ・おじいちゃんのやさしさと思いが、すごい。
- ・命は一つしかないから、大切にしないといけない。
- ・命には限りがある。
- ・生きていることは、いいこと。

そして、最後に生命に関する話をしました。東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市立大川小学校の話をしました。担任が大川小学校に行ったとき、震災当時、大川小の保護者だった方々とお会いすることができました。その時に、向洋小学校の子どもたちに伝えてほしいとおっしゃっていた言葉を子どもたちに伝えました。

○命があれば、どんなことでもできる。

だからこそ、今ある命を大切にしてほしい。

(当時6年生だった子どもたちは、3月11日の翌日に予定されていた卒業式を迎えることができなかった。)

○命を守るために、最良の判断ができる子になってほしい。

(交通ルールを守るように…知らない人にはついていかないように…)

地震が起きたら高台に逃げるように…)

授業の最後に書いた子どもたちの振り返りです。



